

令和7年度横浜市立大学データサイエンス人材育成プログラム（データサイエンス学部）自己点検

データサイエンス学部長

越仲 孝文

本プログラムは、本学データサイエンス学部学生を対象とし、データサイエンス学部が育成する数理・データサイエンス・AIの応用基礎力を「DS (Data Science) x DEI(Diversity, Equity and Inclusion)による価値創造」と捉え、DSがSocial Goodを牽引し、多様な領域において価値創造するためにDS人材が持つべき視座・技能を養成することを目的としている。

【令和7年度】

●教育プログラムの履修・修得状況

本プログラムの履修状況は、収容定員（240名）に対して94%（225名）であった。修了者数は49名であった。修了者数について、令和5年度入学生より、本プログラムの必修・選択科目の配置を見直したプログラムを適用している。併せて、本プログラムの多くの科目が学部必修科目であることを鑑み、引き続きオリエンテーション等を通じ、履修の動機付けとプログラムの周知徹底を行っている。

また、修了に対するインセンティブとして、デジタル学修証明（オープンバッジ）による修了証明を発行している。

●学修成果

各科目における課題や最終試験を通じて、学修成果を確認した。また、各科目の授業改善アンケートにより、学生の理解度と学修成果を把握した。集計・分析結果は、データサイエンス学部およびFD・SD推進委員会で共有し、各科目の改善に活用した。

●学生アンケートを通じた学生の内容の理解度

授業改善アンケートから算出した科目群別評定平均のうち、データサイエンス学部系講義の評価は、学修到達目標の達成「4.5/5」、満足度「4.6/5」といずれも学生評価は4以上と概ね高評価を得たと確認した。

●学外からの視点

3年次に企業等でPBL実習を行う「専門領域演習II」の評価は、教員のみならず、企業の視点での評価も加味されている。令和7年度は、73%の学生が5段階の最高成績評価を取得した。